

2009年4月20日

近畿労働金庫

理事長 石橋 嘉人 様

教育ローンキャンペーン

「近畿ろうきんNPOアワード」選考結果報告書

近畿ろうきんNPOアワード審査委員会

審査委員長 網島 雅彦

去る2009年4月10日に開催された「近畿ろうきんNPOアワード」審査委員会で決定した受賞団体について、選考結果を以下の通り報告いたします。

1. 審査にあたって

今回審査に当っては、2009年2月末での募集締め切りの後、労金側の事務局から事前送付された応募書類をもとに各委員が事前の書類審査を行ったうえで、4月10日に審査委員会を開催して各受賞団体を決定しました。

審査委員会には審査委員5名全員が出席し、互選により審査委員長を選出したうえ、審査委員会指針に則って事前審査の内容を参考にしながら合議を進め、大賞1団体、優秀賞2団体、奨励賞7団体を決定しました。また、今回も後記2.に記載の通り、受賞以外での4団体を「審査委員会特別賞」としていただくようお願いしたいと考えています。

審査委員は下記の通りです（敬称略）。

審査委員長 網島 雅彦

審査委員 島 久美子、山縣 文治、山添 令子、法橋 聡

なお、応募団体の理事・監事に就いている審査委員は、その団体の審査からは外すこととしましたが、該当する審査委員はいませんでした。

2. 決定、総評

本アワードは、昨年度と同様に子育て支援をテーマに実施し、近畿一円から昨年度の76件を上回る、計104件もの多数の団体からのプラン応募となりました。応募件数の増加は、本アワードが社会に浸透していることの表れとあわせて、子育て支援の需要の大きさと裾野の広がりを改めて感じる結果となりました。応募は、活動を始めたばかりのフレッシュな団体だけでなく、地道で長く活動を続けてきた団体からも多く、審査委員会でも助成団体の決定には大変熟慮を要しました。

加えて、今年度の特徴は、これまでの受賞団体が幅広い分野であったことから、子育て支援以外の活動を主体とする団体から非常に多くの応募があったことです。障がい者や病気の子どもへの支援などの課題型を始め、まちづくり分野や環境系の団体などからも、多くの応募をいただきました。子育て支援への多様なプレイヤーの参画が広がっている現状と共に、少ない財源のなか地域で活動している市民活動団体に、本アワードのような助成が切実に求められていることを改めて実感した次第です。

審査にあたっては、事業の先駆性、社会ニーズへの対応性、実現性、波及性、地域や市民との共感性などの項目に加えて、実施団体の活動歴や継続性、あるいは組織運営体制の項目を基準に、審査委員の真摯な協議によって総合的な判断をしました。いずれも甲乙つけ難い提案の中から受賞団体を決定した訳ですが、特に、大賞・優秀賞を受賞した3団体は事業計画の先進性や実現性だけでなく、持ち味を活かした工夫が高く評価されました。これらには及ばないながらも独自性などの点で高く評価された7団体が奨励賞に決定しました。結果として、受賞10団体は、子育て支援を軸としながら、新しい展開をみせる多分野から選出される結果となりました。

各受賞団体の事業プランや選考の講評については、次ページ以降をご確認ください。

なお、今回、最終の選考論議にまで残りながら惜しくも選にもれた事業が4団体ありました。いずれも新しい視点からの特徴ある事業プランであり、審査委員会としては、受賞団体とはならないものの、その4団体のプランを広報支援していただきたいと考えており、これらを「審査委員会特別賞」としていただくことを提案いたします。本アワードの趣旨、優れた活動を広く応援することにも合致するものと考えています。

また、この他、選にもれた団体についても、その事業や熱意は受賞団体、審査委員会特別賞団体に匹敵するものであったことを付け加えたいと思います。

3. 今後への提言として

今回の「近畿ろうきんNPOアワード」は、働く仲間の教育ローン利用の促進が、子どもたちの未来と地域の子育て支援に連動するという仕組みを目指して、昨年度に引き続き、公募型の助成プログラムとして実施されました。

応募いただいたプランは、いずれも社会的ニーズに基づいた切実な事業プランばかりで、「子育て支援」が働く仲間にも共通する社会テーマであり、とりわけ、働く仲間の暮らしを支えるろうきん運動にとっても大きなテーマになり得るものであることを痛感することとなりました。また、ろうきん利用の促進が地域貢献につながるという新たな仕組みを取り入れながらろうきんの社会的アナウンスを高めるなど、まさに、グッドマネーバンクろうきんに相応しい事業であったと考えています。

審査委員一同として、今回のようなろうきんの特徴を生かした地域貢献型・利用者参加型の事業を、グッドマネーバンクの実践としてさらに創意工夫し、今後もより発展的にこのアワードの仕組みを継続いただきたいと強く念ずる次第です。